

日 時：2019 年 7 月 31 日（木）18 時 30 分～20 時 30 分

場 所：八重洲倶楽部第 7 会議室

出席者：澁谷和俊（理事長）宮崎義継、望月隆、泉川公一、大野尚仁、亀井克彦、神田善伸、
杉田 隆、坪井良治、槇村浩一、福田知雄 以上理事 11 名
竹末芳生、三嶋廣繁 以上監事 2 名
若山 恵 幹事 1 名

報告事項

1. 2019 年度事業報告（宮崎理事）
2. 会員異動報告（宮崎理事）
3. 各種委員会報告
 - 1) 編集委員会報告（宮崎委員長）
 - 2) 用語委員会報告（大野委員長）
 - 3) 将来計画委員会報告（神田委員長）
 - 4) ガイドライン検討委員会報告（泉川委員長）
 - ・ 侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践
 - ガイドライン作成委員会報告（竹末委員長）
 - 5) 支部・関連学会委員会報告（泉川委員長）
 - 6) 疫学調査委員会報告（福田委員長）
 - 7) 教育委員会報告（澁谷理事長）
 - 8) 広報委員会報告（槇村委員長）
 - 9) 専門医・認定師委員会報告（望月委員長）
 - 10) 規約検討委員会報告（澁谷委員長）
 - 11) 倫理委員会報告（亀井委員長）
 - 12) COI 委員会報告（亀井委員長）
4. 第 62 回総会報告（坪井前会長）
5. 第 63 回総会準備状況報告（亀井会長）
6. 第 64 回総会準備状況報告（澁谷次期会長）
7. 関連国際学会・会議に関する報告（坪井理事）
8. ICD 制度協議会報告（望月理事）
9. 『AMR アライアンス・ジャンパン提言』
日本医真菌学会 HP での公開について（澁谷理事長）

審議事項

10. 2020 年度事業計画案について（宮崎理事）
11. 2019 年度決算見込みおよび 2020 年度予算案について（望月理事）
12. 名誉会員および功労会員推戴の件（宮崎理事）
13. 次々期（第 65 回）会長選出の件（澁谷理事長）
14. 次期代議員選挙準備に関する報告（宮崎理事）
15. 学会賞、学会奨励賞の件
 - 1) 学会賞選考委員会（大野委員長）

2) 奨励賞選考委員会（亀井委員長）

16.その他

1) 第 93 回日本細菌学会総会への協賛について（澁谷理事長）

2) 不適切な投稿事案について（澁谷理事長）

議事：

1. 2019 年度事業報告（宮崎理事）

事業報告として、会議の開催（理事会 4 回、定例理事会準備会 1 回、メール理事会 3 回、代議員総会 1 回、会員総会 1 回）、第 62 回学術集会の開催（坪井良治会長会期：2018 年 9 月 8 日（土）、9 月 9 日（日）会場：大手町サンケイプラザ）、会誌 59 巻 4 巻～60 巻 3 号の刊行と各種委員会活動を行ったことが述べられた。また、役員が交代になったことが報告された。

2. 会員異動報告（宮崎理事）

2019 年 6 月 30 日現在の会員数は、個人会員 911 名（国 909、海外 2）、顧問会員 6 名、奨励会員 57 名、名誉会員 25 名（国内 23、海外 2）、賛助会員 17 社（57 口）、団体購読 21 名であることが報告された。

3. 各種委員会報告

1) 編集委員会報告（宮崎委員長）

以下報告があった。

①投稿状況（2018 年 9 月 1 日～2019 年 7 月 17 日まで）

・全投稿論文数の内訳

全投稿論文：32 編（依頼：14、総説：1、原著：14、短報：1、症例：1、図説：1）

・国内外の内訳（うち英文論文）

国内：26（15）編（依頼：14（7）、原著：10（8）、短報：1、図説：1）

海外：6 編（総説：1、原著：4、症例：1）

②総説執筆依頼

第 62 回の学術集会における教育講演 1（地域の医真菌関連学術集会の歩み）を「特集」として組むこととなった（真菌誌 60 巻 1 号 2019 年 1 月刊行に収録済）旨が報告された。また、シンポジウムの演者（会員）を対象に執筆依頼を行い、特に英文での執筆を呼び掛けた旨が報告された。

③ESCI の審査結果について（インパクトファクター取得に関連して）

2016 年 8 月 4 日 Web 上で申請。

2017 年 9 月不採用。引き続き、ESCI（Emerging Sources Citation Index、新たに作成されたデータベース）の収録候補として審査中との連絡あり。

2017 年 12 月 ESCI も不採用との連絡（以後、2 年間は再申請できないとのこと）。

2019 年 1 月再度 ESCI の審査を行う旨、連絡あり。

2019 年 6 月 5 日クラリベイト社より ESCI にパスした旨、連絡あり。

ESCI に掲載されることにより、MMJ が Web of Science での検索にヒットすることになり、多くの研究者の目に留まる率が高まった。

次の審査は SCIE への収録審査となる。引用率を高め、会誌の注目度をより高めていく必要がある。なお、ESCI に合格しているため、SCIE への審査にあたり再申請の必要はなく、継続して行われる。

次の目標となる「WOS-3Evaluation」インパクトファクター取得につき、今後は引用されるような英文論文の掲載数を確保しつつ、引用数（引用率）を増やしていくことが求められる。

引き続き、会誌の充実に力添えをお願いしたい旨が報告された。

④会誌への広告掲載依頼について

会誌へ広告掲載の申し込みをいただいている企業、編集委員会にて連絡がとれそうな企業について報告がなされた。今後は、広告掲載からの収入をより増やすことで、出版費用を軽減させていきたい旨が報告された。

⑤2019 年度優秀論文賞について

編集委員会にて審議した結果、下記 1 編を選出されたことが報告され、承認された。

・ Medical Mycology Journal Vol.59 No.1 収録

Authors: Minoru Shinozaki , Naobumi Tochigi , Sota Sadamoto , Somay Yamagata-Murayama, Megumi Wakayama, and Tetsuo Nemoto

Title: Histopathological Diagnosis of Invasive Fungal Infections in Formalin-Fixed and Paraffin-Embedded Tissues in Conjunction with Molecular Methods: Comparison of Reproducibility and Reliability of Histopathological Evaluation, Polymerase Chain Reaction, and In Situ Hybridization

⑥クリプトコックス症ガイドラインの英文 executive summary の掲載について

クリプトコックス症の診断・治療ガイドライン 2019 の内容を英文翻訳して、MMJ 誌に掲載することが提議され承認した。

⑦抄録集の表紙について

これまで、学術集会の抄録集は「学会誌の一部」として刊行されており、MMJ 誌の表紙を流用し「supplement」として刊行していた。現在、MMJ 誌が英文誌としてインパクトファクター取得を目指していることを鑑みて、今回より抄録集は和文誌の supplement として刊行する。表紙を和名のみにするこゝで進めたい旨の提案があり、承認された。

2) 用語委員会報告（大野委員長）

以下活動報告があった。

① 国際疾病分類第 11 回改訂版（ICD-11）にかかる和訳に関する意見照会

・厚生労働省国際分類情報管理室より日本医学会を經由して ICD11 日本語訳に関する意見の依頼を受け、真菌に関連のある用語について、各用語委員から意見を聞き集約した。

・日本感染症学会の用語和訳とのすり合わせを、梅山委員に窓口となって行った。

・各委員からの意見、日本感染症学会とのすり合わせを行った和訳案を厚生労働省国際分類情報管理室に提出した。

② 代表的な病原真菌のカタカナ表記の提案

・医学用語辞典に記載されている菌の学名カタカナ表記について、医真菌学会の菌名カタカナ表記と一致させるために、医学用語辞典へ投稿、登録を行った。

・ムーコルの分類、表記については、各先生方の意見をまとめた。今後、パブリックコメントを求めるなどの活動が必要であると考えている。

③ 日本医学会：遺伝学用語改訂 (dominant、recessive、優性、劣性) に関するアンケートへ優性・劣性の表現を変える必要があると回答した旨が報告された。

④ 日本医学会分科会用語委員会に出席した旨が報告された。

⑤ 「ムチン」の用語の取り扱いについて、医真菌学会用語集では、mucilaginous に対してムチンを用いた訳出はしておらず、学会としての対応は、特段必要無いと返答した旨が報告された。

⑥ 用語解説の掲載

シリーズ用語解説(No.20-23)を Medical Mycology Journal に掲載

シリーズ用語解説(No.20)：ハイコンテント解析法、フィコリン

シリーズ用語解説(No.21)：エクソソーム、インターロイキン 17

シリーズ用語解説(No.22)：薬剤耐性、抗微生物薬使用密度と抗微生物薬使用日数

シリーズ用語解説(No.23)：菌腫、ペントラキシン 3

以上の活動が報告され、原稿の作成依頼を委員で分担し、用語委員から他の学会会員への原稿依頼も行っており継続的に掲載していきたい旨が報告された。

3) 将来計画委員会報告 (神田委員長)

新規入会会員獲得のため、以下提案があり、継続審議とした。

- ① 後期研修医等の若手医師を対象とした教育的レクチャー
- ② 他学会との共催セミナーや企業との共催セミナー
- ③ 多施設共同研究のための学会ワーキンググループ設置
- ④ HP の改善(若者向けのデザイン、研究費助成金リンク等)
- ⑤ コ・メディカルの年会費、学会参加費の軽減
- ⑥ 認定制度等の導入
- ⑦ 血液学会総会との日程調整

総会・学術集会が日本血液学会総会と重なることが多くなっている。今後の会長に検討を依頼する。

※ 後日、神田委員長より日本血液学会学術集会の日程のお知らせがあった。

第 82 回日本血液学会学術集会

会期：2020 年 10 月 9 日 (金) ～11 日 (日)

会場：国立京都国際会館

会長：宮崎泰司 (長崎大学)

第 83 回日本血液学会学術集会

会期：2021 年 9 月 23 日 (木) ～25 日 (土)

会場：仙台国際センター

会長：張替秀郎 (東北大学)

4) ガイドライン検討委員会報告

侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドライン委員会について、竹末委員長より以下報告があった。

- ① 委員会を1回、コアメンバーの会議を1回、計2回会議を行った。各メンバーがシステマティックレビューを行い、メタ解析が必要であればメタ解析班が対応することとした。
- ② カンジダ血症の治療、検査方法では複数のクリニカルクエスション（以下CQ）を設定したが、それ以外の項目では、1つの項目に対して、CQは原則1つとし、CQだけで各項目の重要事項を全てカバーすることはできないため「解説」で補足する。
- ③ Summaryと「解説」の2部構成となり、summaryはCQに対する回答。解説では、CQに関することに加え、それ以外の必要事項を記載する。
- ④ 各項目のCQに対して、PICO[P(患者)、I(介入)、C(対照)、O(アウトカム)]を設定し、文献検索を行う。
- ⑤ CQに対するシステマティックレビュー、メタ解析は、一部の項目のみ必須とする。他は各担当者の判断。全てのCQでPICOを設定したが、担当の項目によっては、質の高い研究（あるいはRCT）はないため、メタ解析はせずに、その場合は解説を中心として頂く。

坪井、望月理事から日本皮膚科学会の皮膚真菌症診断・治療ガイドラインの改訂状況について発言があった。現在パブリックコメントを実施しており、完成に近づいている。

侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドラインが完成となったら事務局にてISBN番号の登録を行う。

5) 支部・関連学会委員会報告（泉川委員長）

以下報告があった。

■日本医真菌学会支部会の開催予定

東北支部

2019年6月23日（日）第31回東北真菌懇話会・日本医真菌学会支部会（宮城）

2019年12月20日（金）第3回東北医真菌研究会（宮城）

2020年7月12日（日）第32回東北真菌懇話会（宮城）

関東支部

2019年6月29日（土）第68回神奈川医真菌研究会（神奈川）

2020年5月9日（土）第69回神奈川医真菌研究会（神奈川）

東海・北陸支部

2019年1月26日（土）第4回東海・北陸支部会深在性真菌症部会（福井）

2019年3月3日（日）第49回北陸真菌懇談会・第4回日本医真菌学会東海北陸支部表在性真菌症部会講習会（石川）

2019年3月16日（土）第43回東海医真菌懇話会・第4回日本医真菌学会東海北陸支部表在性真菌症部会（愛知）

2019年7月7日（日）第50回北陸真菌懇談会

2020年1月25日（土）第5回東海・北陸地方会深在性真菌症部会（岐阜）

2020年2月4日（土）第44回東海医真菌懇話会・第5回日本医真菌学会東海北陸支部表在性真菌症部会（愛知）

2020年3月1日(土)第51回北陸真菌懇談会・第5回日本医真菌学会東海北陸支部表在性真菌症部会講習会(石川)

2020年7月5日(日)第52回北陸真菌懇談会

関西支部

2019年7月21日(日)第107回関西真菌懇話会・真菌セミナー(大阪)

2020年2月8日(土)第7回日本医真菌学会関西支部深在性真菌症研究会

2020年8月29日(土)第108回関西真菌懇話会・真菌セミナー

2021年開催予定第8回日本医真菌学会関西支部深在性真菌症研究会

九州・中四国支部

2019年7月7日(日)第3回日本医真菌学会九州・中四国支部会、第86回九州真菌懇話会合同開催(福岡)⇒終了、HPアップ済み

2019年12月8日(日)第87回九州真菌懇話会(沖縄)

2020年7月5日(日)第4回日本医真菌学会九州・中四国支部会、第88回九州真菌懇話会合同開催(長崎)

日本医真菌学会後援学術集会

2020年6月6日(土)第41回関東医真菌懇話会(東京)

■ 2018年7月～2019年6月支部別新入会者数

	北海道支部	東北支部	関東支部	東海・北陸支部	関西支部	九州・中四国支部
皮膚科	0	0	9	2	1	2
その他	1	0	26	4	6	6
合計	1	0	35	6	7	8

6) 疫学調査委員会報告(福田委員長)

報告事項なし。

7) 教育委員会報告(杉田委員長:欠席)

澁谷理事長が代理で下記報告を行った。

1. 第7回皮膚真菌症指導者講習会の開催

日時:2019年7月27日(土)

場所:帝京大学板橋キャンパス

実行委員長:望月 隆先生

日本皮膚科学会専門医制度後実績:3単位

2. 他学会との共催

1) 第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会(2019年1月31-2月2日)

2) 第93回日本細菌学会総会(依頼中)

8) 広報委員会報告(楨村委員長)

ホームページを充実させるため以下提案があった。

- ・医真菌 Q&A を掲載する。
- ・各委員会報告を充実させる。
- ・Wikipedia の本会ページを更新し、英語版を作成する。追加するコンテンツについては広

報委員会で審議を進めることとした。

9) 専門医・認定師委員会報告（望月委員長）

2019年度の審査結果の報告があった。下記新規6名、更新10名（対象者16名：合格16名）を合格としたことが報告された。

新規

受付番号	氏名	所属
1	坂田 祐一	町立富来病院
2	牛上 敢	金沢医科大学皮膚科学教室
3	原田 和俊	東京医科大学病院皮膚科学分野
4	高園 貴弘	長崎大学病院呼吸器内科
5	牧野 公治	国立病院機構熊本医療センター皮膚科
6	戸根 一哉	東京慈恵会医科大学付属病院呼吸器内科

更新

受付番号	氏名	所属
1	服部 尚子	なおこ皮膚科クリニック
2	二宮 淳也	ながせ皮膚科
3	三嶋 廣繁	愛知医科大学 大学院医学研究科感染制御学
4	藤田 繁	藤田皮膚科クリニック
5	北見 由季	昭和大学病院 皮膚科
6	楠原 正洋	楠原皮膚科医院
7	菊地 伊豆実	哲学堂 きくち 皮膚科
8	高原 正和	たかはら皮ふ科
9	服部 尚生	はっとり皮フ科クリニック
10	串間 尚子	福岡大学病院呼吸器内科

今回、関連学会への出席のみの業績で資格更新した会員がいた。今後は業績を関連学会から学会総会や地方会等への出席に変更することを検討することとした。

坪井理事より懸案事項である資格名称を専門医から認定医に変更する件について、進捗状況の照会があった。詳細については検討中である。また同様に継続審議事項となっていた医師以外の資格認定制度（例えば認定師などの名称で）の新設について議論した。両方とも進めることで合意し、規約の改定から作業を始めることとした。

10) 規約検討委員会報告（澁谷委員長）

規約全般を見直し整合性を確認している。作業完了後に報告すると述べられた。

11) 倫理委員会報告（亀井委員長）

報告事項なし。

12) COI 委員会報告（亀井委員長）

特定非営利活動法人ワセダクロニクルは製薬企業等が医師へ支払った謝金、講演料などをデ

データベース化し、ネットに公開している。これを新聞社が記事にするなど社会的関心が高まっている。同法人はさらに事業を本格的に展開させる動きがある。引き続き動向を注視していく。

ガイドライン委員会メンバーに対し利益相反自己申告書の提出が一時期滞っていたが、すでに全委員から提出があったことが事務局から報告された。

4. 第 62 回総会報告（坪井前会長）

収支決算について報告された。

5. 第 63 回総会準備状況報告（亀井会長）

2019 年 10 月 11 日-10 月 12 日、オークラ千葉ホテルにて開催予定であることが報告された。また、プログラムについて説明があった。

6. 第 64 回総会準備状況報告（澁谷次期会長）

2020 年 10 月 9 日-10 月 10 日、京王プラザホテルにて開催予定であることが報告された。特別講演は末松誠先生（国立研究開発法人日本医療研究開発機構：AMED）による「AMED のミッション：研究開発のためのグローバルデータシェアリング」を企画している。

7. 関連国際学会・会議に関する報告（坪井理事）

APSM2019 が中国広州にて 2019 年 11 月 22～24 日の日程にて開催される旨が報告された。

8. ICD（Infection control doctor）協議会報告（望月理事）

報告事項なし。

9. 『AMR アライアンス・ジャパン提言』日本医真菌学会 HP での公開について（澁谷理事長）

AMR アライアンス・ジャパン提言の学会ホームページ掲載について審議し承認された。本理事会後すぐに掲載することとした。

10. 2020 年度事業計画案について（宮崎理事）

事業計画として、会議の開催（理事会 3 回、代議員総会 1 回、会員総会 1 回）、第 63 回学術集会の開催（亀井克彦会長会期：2019 年 10 月 11 日（金）、10 月 12 日（土）会場：オークラ千葉ホテル）、会誌 60 巻 4 巻～61 巻 3 号の刊行を予定している。また、役員・代議員選挙を実施することが報告された。

11. 2019 年度決算見込みおよび 2020 年度予算案について（望月理事）

2019 年度決算見込みについて報告があった。

収入の部

- ① 掲載料は、請求件数が少なかったため、予算を下回る。
- ② 雑収入には、企業より依頼があった別刷代収入が計上された。

支出の部

- ① 印刷費は、59-4、60-2 のページ数が少なかったため予算を下回る。
- ② 旅費は、クリプトコックス症ガイドライン委員会の旅費が少なかったため、予算を下回る。

- ③ 地方会補助金は、9支部からの申請を想定していたところ、3支部からの申請であったため、予算を下回る。
- ④ 選考委員会費は、学会賞委員会・奨励賞選考委員会をメール審議で行ったため、資料発送などの送料のみの支出であったため、予算を下回る。

地方会補助金は申請を行っていないところがあるため、再度リマインドし申請があれば支払うこととした。

【2020年度予算案】

収入の部

- ①会費収入は納入率95%と過年度分の会費を予算立てた。
- ②ガイドライン販売収入は、2020年度はガイドラインの新発行がないため、予算を計上していない。

支出の部

- ①カンジダ症ガイドラインの発行は2020年10月を予定しているため、ガイドライン印刷費は計上していない。
- ②奨励賞副賞について審議を行い、1名5万円に決定した。3名が選出される見込みのため15万円を計上する。
- ③2020年度は理事・代議員選挙が行われるため、過年度同様に50万円を計上する。

以上が特筆事項となりその他は前年並みの予算とした。

2019年度決算および2020年度予算案は次回理事会にて承認を行うこととした。

12. 名誉会員および功労会員推戴の件（宮崎理事）

今年度の名誉会員推戴候補者はなく、功労会員候補者は次の4名で、加藤卓朗先生、川本進先生、坪井良治先生、山田裕道先生を推薦することで合意した。

13. 次々期（第65回）会長選出の件（澁谷理事長）

宮崎義継理事（国立感染症研究所）が2021年度第65回日本医真菌学会総会会長へ推薦され、承認された。

14. 次期代議員選挙準備に関する報告（宮崎理事）

次期代議員・理事選挙に関する日程が報告された。選挙管理委員は若山恵幹事から推薦1名、宮崎理事（国立感染症研究所）より推薦1名、坪井理事（東京医大）より推薦1名で構成することを確認した。

15. 学会賞、奨励賞の件

1) 学会賞選考委員会（大野委員長）

2019年6月27日より7月9日の期間で実施された持ち回り審議（委員：亀井克彦、坪井良治、楨村浩一、望月隆、大野尚仁、但し推薦者及び所属を同じくする委員を除く）の結果、下記2名は本賞に値するものとし、候補者として選考したことが報告された。異議なく承認された。

- ・竹末芳生（兵庫医科大学感染制御学）

「侵襲性カンジダ症診断、治療における臨床的研究」

・宮崎義継（国立感染症研究所真菌部）

「病原性酵母の病原性ならびに制御に関する研究」

2) 奨励賞選考委員会（亀井委員長）

奨励賞に関する規約に基づき、下記 3 名の業績をメール委員会にて審議した結果、3 名とも受賞していただくのが適切であるとして 3 名を候補者として選考したことが報告された。異議なく承認された。副賞は議題 11 での審議に従い 1 人 5 万円とする。

- ・萩原大祐（筑波大学生命環境系系状菌相互応答講座）
- ・梅山隆（国立感染症研究所）
- ・張音実（明治薬科大学微生物学研究室）

16. その他（澁谷理事長）

1) 第 93 回日本細菌学会総会への協賛について

第 93 回日本細菌学会総会からの協賛依頼文書を確認した。協賛について承認された。

2) 不適切な投稿事案について

ある会員の投稿論文を編集委員会がリジェクトしたところ、自身の意見を強く主張され編集委員会で長期間にわたり対応している。主張内容は、科学的合理性を著しく欠いているが、不誠意な第三者により一般に主張や紛争が公開される等の不測の事態に備えて、緊張感を持った危機管理を行なって行く。編集委員会では真摯に対応を行っており、続くようであれば今後も理事会で情報を共有していくこととした。

3) 新委員会の新設

澁谷理事長より学会の活性化のため、新たな学会賞設置とその内容を審議する検討委員会の新設が提案された。異論はなく具体的な内容は継続審議とした。

4) 学術集会領収書の件

学術集会の領収書が参加費と懇親会費が分かれていないため、一部の施設ではそれが会計書類として不備があると判断されているケースがある。異論はなく今後の学術集会では検討を重ねて対応することとした。

5) 第 70 回日本皮膚科学会中部支部大会の後援について

大会長を務める望月理事より後援依頼があり、異議なく承認された。テイクフリーコーナーに過去の医真菌学会雑誌を置かせていただき無料配布できるようにすることが提議され、望月理事がこれを了承した。

以上

議事録署名人
理事長 澁谷 和俊
監事 竹末 芳生

